

人との接し方のスキルアップ—解答付ノート

人間関係がリーダーシップに持つ不可欠な役割

イクイップミニストリーズ ジョン・マックスウエル

「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。」ヨハネの福音書 13 章 15 節

イエス様より人との接し方が上手かった人はいません。イエス様が行くところにみんなついて行きました。なぜでしょう？ それはイエス様がみんなを愛していたからです。イエス様は出会うすべての人のニーズに応えたのです。イエス様は彼らの霊と心と身体に触れられました。

リーダーシップの基礎は人間です。古いことわざにもあります。「自分が導いていると思っているが誰も従っていない人は、ただ散歩しているだけだ。」もしあなたが人間関係を築けないなら誰もあなたについてこないでしょう。長期的には人間関係がリーダーを成功させるか破滅させるかの鍵です。効果的なリーダーは自分や自分の成功にフォーカスしません。彼らにとっては人を成長させることこそが成功からです。

リーダーシップと人についての4つの真実

1. 人は教会の一番大切な 宝 である。
2. リーダーにと一番必要なのは 人との接し方のスキル である。
3. リーダーシップとは 人間関係 なので、良いリーダーは様々なグループをリードできる。
4. 接し方のスキルがあれば良い リーダー になれるとは限らないが、そのスキルなしには良いリーダーになれない。

ルカの福音書 10 章 30-37 節

イエスは「私の隣人とはだれですか」と尋ねた人に、このたとえを話された。ある人が強盗に遭い、殴られて半殺しにされて道端に置き去りにされた。まもなく宗教関係者が二人通りかかったが立ち止まらなかった。たぶん、彼らは宗教行事に行く途中だったのだろう。その後、サマリア人が来てその人を助け、元気になるまで介抱した。そこでイエスは尋ねられた。「この話の中で誰が隣人か？」

イエス様人間関係やミニストリーはあなたのすぐそばにいる友達に限定されていないことを教えられた（ルカの福音書 10 章 36-37 節）。また、人間関係は宗教活動よりも大切であることも教えられた（マタイの福音書 5 章 23-24 節）。

イエス様は次の真理も説かれた。

あなたは自分を見ているように人に仕える

「善きサマリヤ人」の例えは、私たちが自分を見ているように人と接することを表している。強盗に遭った人の違った扱われ方に注意してみましょう。

1. 強盗

彼らは人をモノ扱いした。

彼らは人を支配した。

彼らはその人を 使い捨て と見なした。

2. 祭司

彼らは律法を守る人だった。

彼らはきよい人だった。

彼らはその人を 避けるべき問題 と見なした。

3. サマリヤ人

彼は軽蔑されていた。

彼は無視される気持ちが分かった。

彼はその人を 愛されるべき存在 と見なした。

人を利用するか、避けるか、愛するか。あなたはリーダーとして、ミニストリーの中でこの三つすべてをしたくなるでしょう。ゴールは彼らの欠点を見るのではなく、彼らのニーズを見つけることです。

リーダーシップとは人間関係である

何年も前、クリスチャンのリーダーが集まって会議を行った。彼らの目的はキリスト教信仰を一文にまとめることだった。彼らはもう一步踏み込んで、キリスト教を一言にまとめた。その言葉は、

「キリスト教とは 関係 である。」

世界のすべての宗教とキリスト教を区別するものは関係の重要性である。私たちの信仰は教義や戒律ではなく関係を中心にかたちづくられている。考えてみましょう。律法の中で一番重要な戒めは何かと尋ねられたとき、イエス様は「心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」と言われた（垂直関係）。そして、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」とも言われた（並行関係）。イエス様は、聖句を 50 節暗記していることでキリストの弟子であると知られるとは言われなかった。イエス様の弟子であると知られる方法は人間関係の持ち方だと言われた。私たちはどれだけ人を愛しているだろうか？

質問 人生であなたが一番愛せない人のことを考えてみましょう。
なぜ愛せないのでしょうか？どのように彼らを見えていますか？

質問 どうしたらあのサマリヤ人のように人を見ることができるよう？

「人はどれだけあなたが知っているかなど気にしない。
どれだけあなたが気にしてくれるかを知りたいのだ。」

ジョン・C・マクスウェル

霊的なリーダーシップの定義

自分の人間関係が健全に発展するように責任を持つ人

四つの言葉による描写

例 1 主催者

（良い主催者は主導権を取り、他の人を居心地良くさせる。）

リーダーとして、人生において主催者として人と話し、関わらなければならない。リーダーは人間関係においてお客さんであってはならない。良い主催者が自宅でどのようにもてなすのかを知ることで、私たちはどこでも誰にでも同じようにできるはずである。

例 2 医者

（良い医者は質問する。何が必要かわかるまで探る。）

相手が何を必要としているのかを見つけるために、その人の状態が分かるまで質問しましょう。彼らのニーズについてアドバイスするのはそれからです。診断する前に処方箋を出さないように。

例 3 カウンセラー

（よいカウンセラーは積極的に聴き、聞いたことを解釈する。）

人との接し方において堅実なスキルを持つリーダーとして、積極的な聴き手になる必要がある。言葉を発しなくても相手を理解していることを伝え、共感していることを表すべきである。

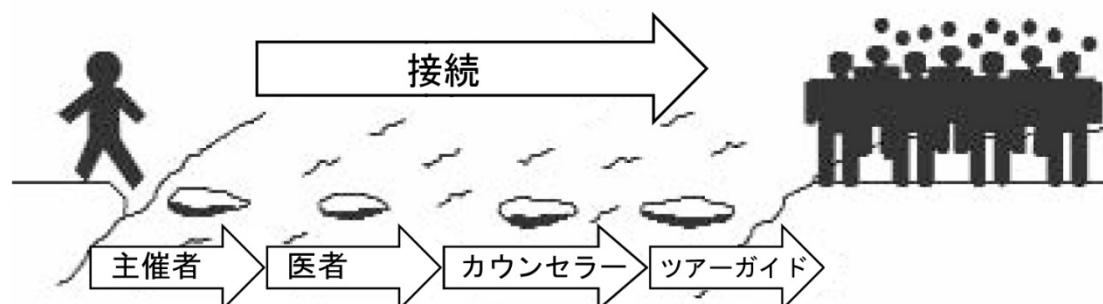
例 4 ツアーガイド

（ガイドは参加者と交わるだけでなく、目的地まで案内する。）

リーダーの人間関係のスキルは人々を目的地に連れて行く能力に集約される。私たちの目的は人に好かれることではなく、彼らの人生の旅路を導き、一人では辿り着けなかったであろうゴールへと到達させることである。

多くのリーダーがリーダーシップと人間関係を分けて考えるというミスを犯している。それはリーダーのポジションにつくと、そのポジションのためにみんなが自分に従ってくれると思い込むときに起こる。

リーダーは導いている人のニーズに応じた 役割を果たすべきである。私たちの仕事は人と繋がることでその人を目的地へ連れて行くことである。



全てのリーダーが人間について知っておくべきこと

1. 人は 不安定 である。自信を与えましょう。

基本原則： 傷ついた人は人を傷つける。安定している人は人に安定感を与える。

- ほとんどの人が人生のある分野で不安定である。
- 不安定な人はたいてい安心感を求めている。
- 安全な環境は安定感と自信のある人によってのみ与えられる。

また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。（ヘブル人への手紙 10 章 24 節）

2. 人は 特別 だと感じたい。褒めましょう。

基本原則： 自分に向き合うときは頭を使う。人に向き合うときは心を使う。

あなたが言葉で人を認めて褒めるとき、

- 誠実であるために正直に話さない。
- 明確にするために具体的に話さない。
- みな聞こえるように公の場所で話さない。
- 一般的な感謝ではなく個人的に話さない。

兄弟愛をもって互いに愛し合い、互いに相手をすぐれた者として尊敬し合いなさい。（ローマ人への手紙 12 章 10 節）

3. 人はより良い **明日** を求めている。希望を与えましょう。

基本原則：今日を生きる鍵は明日への希望である。

誰もがよりよい明日を願って生きている。未来に望みがなければ現在に力はない。十数年前、効果的な働きをしている牧師の共通点を見つける調査があった。彼らには一つの共通した特徴があった。日曜日の最大の目的は信徒に希望を与えることだと異口同音に言ったのである。

私はこれを心に思い返す。それゆえ、私は言う。「私は待ち望む。主の恵みを。」実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。（哀歌 3 章 21-23 節）

4. 人は **理解** される必要がある。彼らの言うことをよく聞きましょう。

基本原則：彼らと通じ合うために、心を開く鍵となるものを理解する。

人の心を開く鍵を知る

- 何について話しているか？
- 泣いている理由は？
- どんな夢があるか？
- どんなことに笑っているか？
- どんな計画があるか？

喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい。（ローマ人への手紙 12 章 15 節）

5. 人は行くべき **方向** を知らない。道を示しましょう。

基本原則：ほとんどの人は舵を取れる。リーダーは人生の航路を決めるのを助ける。

- リーダーは正しい道を知るべき。
- リーダーは正しい道を進むべき。
- リーダーは正しい道を示すべき。

私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じ長老の一人として、キリストの苦難の証人、やがて現される栄光に預かる者として勧めます。あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。

(ペテロの手紙第一 5 章 1 - 2 節)

6. 人は **困窮** している。彼らにニーズについててまず話しましょう。

基本原則：人は他の人を助ける前に、自分が助けられなければならない。

ほとんどの人はこう思う

リーダーはこうすべき

自分の状況は特殊である

人のことを第一にする

自分の問題が一番大きい

みんなのニーズを知る

自分のミスは許されるべき

全体像を見る

自分の時間が一番大切

成長を助けるために愛する

それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧みなさい。

(ピリピ人への手紙 2 章 4 節)

7. 人は **精神的に落ち込む**。励ましましょう。

基本原則：人は報われることをする。

ある実験

何年も前に人間がどのくらい痛みに耐えられるかの実験が行われた。氷の入ったバケツの中に裸足でどれだけ立っていられるかを測ったのだ。すると、励ましたりサポートしたりする人がいれば、励ましやサポートのない場合よりも二倍の時間、苦痛に耐えられることが分かった。

…深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着なさい。互いに忍耐し合い…

(コロサイ人への手紙 3 章 12 -13 節)

8. 人は **成功** を求める。勝利の手助けをしましょう。

基本原則: 手を差し伸べ、ゴールのために手助けをする。
勝利にはたくさんの父親がいる。敗北はみなしごだ。

質問: 以下の単語に共通しているものは?

高い士気 - 熱意 - 勢い - 楽観主義 - エネルギー - 興奮

答え: 勝利。誰だって優勝チームの一員になってゴールを達成したいと願っている。リーダーがみなを勝利へ導く。

「二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。」
(伝道者の書 4 章 9-10 節)

9. 人は **絆** を求めている。コミュニティを作りましょう。

基本原則: 101%の原則を実践してみる。ある人と 1%の共通点を見つけたらそこに 100%集中する。

神様のみことばはコミュニティに終始している - エデンの園に始まり神の国で終わっている。私たちの信仰生活は一人旅ではない。新約聖書には「私たちは互いに、からだの一部分なのです」とある。saint (聖徒の単数形) という言葉は新約聖書に出てこないが、saints (聖徒の複数形) は何度も登場する。

一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分がともに喜ぶのです。」
(コリント人への手紙第一 12 章 26 節)

10. 人は **お手本** を探している。見本になりましょう。

基本原則: 人は見たことをする。

生きたお手本

アッシジの聖フランシスの初期の弟子たちは人々を助けるために何をすべきかを知りたがった。聖フランシスはこう言った。「常に福音を伝えなさい。もし必要なら言葉を使いなさい。」

私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい。
(コリント人への手紙第一 11 章 1 節)

評価：人間関係においてあなたが一番葛藤しているのは何ですか？あなたが主催者になることでより効果的に導かせようと神様が与えてくださった人を何人かリストしてみましょう。

実践適用：どうしたらこれらの葛藤に克服して人と繋がることができるだろうか？

あなたは人の気持ちがよく分かる人になれる！